

第3回検討委員会における議論の整理 (1)

アリーナのコンセプト・役割・機能

【各項目の優先順位】

- ・5つのコンセプトの濃淡、優先順位はあるか。役割と機能でエッジを立て、際立たせれば議論しやすい。コンセプトが事業者に対するガイドラインになるならば、誘致する側の意思をもっと鮮明にしてもいいのでは。(長井委員)
- ・一番重要だと思うのが「集うアリーナ」で、市民にとってすごく重要。市民が気軽に来られて、集まれる。県外の方もまた行きたいという、静岡へ旅行するきっかけがもたらされるアリーナ像があれば、静岡市の売り物になり、交流人口の増加につながる。集いやすい、来やすいということがあればいい。(宗野委員)

【地域全体から見たアリーナ】

- ・地域全体がどう集客し、賑わうのか。駅の北側だけでなく南側も、グランシップをはじめ広大なゾーンがあり、アリーナが地域一帯でどういう存在になるのか。アーバンスポーツで、若者や親子連れが集まっているが、今後どうしていくのか。一体で議論しないと、コンセプトはまもられない。(岩田委員)
- ・箱だけではなくエリア全体を見渡して、長期的なスパンで考えた上で、アリーナがある。過去の市民ワークショップで、グランシップを含め、地域がどうあるべきかを考えた経緯があり、当時の資料や住民の声を、コンセプトに注入できればと思う。(菅委員長)

【静岡市らしさ】

- ・アリーナ事業を進めるのに必要な要素が詰まっているが、どの自治体でも教科書どおりに作るとこうなる。市のシンボル、静岡市らしいアリーナ、市の魅力とは何か、という議論があまりできなかった印象。(桂田委員)
- ・どこにでも使える自治体のアリーナコンセプトと言えなくもない。(菅委員長)
- ・ネーミングで静岡を代表するものの言葉を出すことにより、イメージが狭められ、民間企業の邪魔になる可能性もある。数十年前に流行ったものが陳腐化する場合があります、言葉として出すべきかは考えた方がいい。(久保田委員)
- ・立地が静岡市らしく、合併した旧静岡市、旧清水市のどちらにもいい影響がある。他の市やアリーナにはない特徴的な立地を含めたほうが良い。地域のためのアリーナの地域とは、そういう意味を持つ。(久保田委員)

【地域住民、課題への配慮】

- ・地域住民の不安や課題を解決していくという市の姿勢をコンセプトに示したほうが、事業の推進に良い影響を与える。(安池委員)
- ・地元住民への配慮、アリーナが地元の負担にならないということは、機能の中の1つ。(菅委員長)

【その他の意見】

- ・「選ばれる」という主催者側の価値判断、「地域のための」という社会的価値、「稼げる」という経済的価値は全て連関する。使用料金など興行するためのコストが高ければ、MICE、スポーツ、エンタメの敷居が高くなる。(長井委員)
- ・「稼げる」は市民に、赤字が出ず、収益性が高く、収支報告等を明確にするという市の姿勢。「収益性の高い」と言った方がいいが、短い文章でまとめ、採算性のあるアリーナということであれば理解する。(安池委員)
- ・静岡市にどれだけのインパクトが起きるかを明確に示すことで、市民が期待度とワクワク感を感じる。市の事業に市民も深く関わり、自分たちが望んでアリーナを誘致する、静岡市が日本の中で新しいステップを踏んでいく、自分たちがそれを決めていくという空気感を作っていける。アリーナでこんなことができる、静岡が変わるということを、市民に前向きな情報として示すことができれば、この委員会は大成に終わる。(安池委員)

第3回検討委員会における議論の整理（2）

委員の 主な意見	<p>アリーナの事業手法</p> <p>【PFIについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PFIは契約自体が長期的になり、20年、30年という間の、業者の経営状態による難しさがある。(中村委員) ・PFIのコンセッション方式を想定した資料だが、BTO方式・独立採算型コンセッション方式・混合型コンセッション方式に分類して示したほうが良い。(桂田委員) ・営利活動への補助ではなく、経済波及効果や社会的価値に対する市の負担なので、集う、防災というところは当然PFIの条件に入るが、条件や足かせが多くなり、儲かるアリーナができづらく、民間が参入しづらく、収益拡大、支出の減少の伸びしろが減ることもある。(岸委員) ・PFIのBTOかコンセッションかは、ヒアリングではBTOの方が、民間としてはやりやすいという意見もあり、PFIの細かいところまで、我々がどこまで取り込むかは、考えていければいいと思う。(岸委員) <p>【整備効果に対する市の財政負担】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市がどこまで財政負担をするのかを考えるため、市民や街、地域経済にもたらす効果をクリアにイメージしないとイケない。市の負担が高い、安いではなく、得られる効果に対し、どれだけ支払うか。単純に市の負担だけで議論する前に、市がどの程度のインパクトを見込み、どの程度の財政負担をしてでも実現させたいかを詰めて、意思統一を図る必要がある。(岸委員) ・若者の流出が問題で、若者に魅力あるまちづくりを提供する観点から、財政負担をしてでも文化施設を作るべきということなら、多少、行政の負担が多くても、民間事業者が参入しやすいスキームでぜひ実現すべき。そうではなく、箱物として収支が取れなければ、財政負担をする必要はない。(岸委員) 	<p>【幅を持った事業手法の整理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業手法はコンセプトと裏表になり、今後、アリーナがこうありたいという要件を示し、民間事業者が検討に入るが、形を決めてしまうのはどうか。(長井委員) ・経済的効果や社会的価値を含め、市として期待する効果に対する財政支出が示されれば、今後の議論がぶれないが、選択肢が広すぎる気がする。コンセプトでやりたいことを決め、民間事業者が乗りやすい形を示すことが良く、先に事業手法を決めると苦しみ気がする。決めるにしても、前提となる条件が出揃うかわからない。(長井委員) ・市の行政の方から、どう思うかを聞かれ、委員が集まって話をしている。ある程度の線を委員会で出し、最終的には民意、政治的な決断が絡まなければ決定しない。行政の方を超えて、政治、市長という話になると、選挙で考え方が変わる可能性もある。行政の方としては、なるべくいいところを市民に提示したい、という考えで、行政の方に詰めることを求めるのは少し厳しい。(久保田委員) ・形を決め打ちするよりは、ある程度の幅を持たせ、民間も参入しやすく、ノウハウを活用しやすく、市の方針にもメリットをもたらす、というバランスを考えて設計する必要がある。(岸委員) ・メディアはコンテンツを選び、コンテンツはメディアを選ぶ。アリーナ本体と周辺エリアが一体化したとき、市民が有料でエンタメやスポーツを見に来ることもあるが、イベントがない時にどう活用していくか。本体と周辺を分けた契約形態に展開することもあり、事業手法は決め込まない方が良い。事業手法は事業主体によって決まる。(長井委員) 	<p>【事業手法のまとめ方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民設民営で事業者の手が上がる可能性もあり、事業手法は広めに、民間ノウハウの活用プラス公共性をカバーしたアリーナという、経済性と社会性の両面で作ることを、市民目線で伝えられるようにまとめたい。(菅委員長) ・市民が見て、こんないいアリーナならすぐにでも建ててほしいと思ってもらえるもの、一定程度、行政の財政出動の可能性はあるが、それを上回る社会的なメリットがあるというストーリー、事業スキームはこういうパターンがある、という示し方が今年度の着地点と考えている。(菅委員長) <p>【その他の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東静岡駅前というすごく良い立地的で、市民サービスに対する貢献が大きい期待される。館内でイベントがある時は人も集まるが、ない時も市民が集う憩いの場とすると、役割、機能は中と外で分かれるかもしれない。施設の一部を、公共サービスを提供する場所として、市が面倒を見る、館内はエンタメ・プロスポーツ・市民スポーツと分離すると、2つの事業手法を締結することが考えられる。(長井委員)

第3回検討委員会における議論の整理 (3)

委員の 主な意見	<p>今後、対応すべき課題</p> <p>【商圈・移動時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平日の夜7時にコンサートを始めた時に、移動が1時間圏内の方がどれくらいいるか。興行側は、商圈と交通による移動に関心がある。(長井委員) <p>【社会的効果の整理】</p> <ul style="list-style-type: none"> どんな経済波及効果、プラスアルファどんな社会的効果が見込まれるのかを可視化し、防災など、考えられる社会的インパクトを羅列していただきたい。(菅委員長・岸委員) 昨今で言えば、部活動の地域移行などもある。社会的価値を生むためには、ソフト面が必要。(長井委員) <p>【市の対応、事業者を求める対応の整理】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題に対する対策案として、地盤などの問題は、事業実施時に考慮して設計するような条件となる。商圈など、もう少し意見を聞くべきものもある。事業実施時に解決してもらいたい条件になるのか、事業実施までに行政が解決する課題なのか、示してほしい。(岩田委員) 商圈、社会的効果、交通渋滞を含めて、行政がしっかりやっていく部分と、民間に条件を出してやってもらう部分の整理がわかるような資料をお願いしたい。(菅委員長) 	<p>【交通・渋滞対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ラッシュ時は国道が渋滞し、迂回路がなく心配している。興行の時間帯とラッシュの時間帯が、どうバッティングするのかが気になり、住民の帰宅時と一緒にになると、苦情が出ることがあると思う。(中村委員) 集客イベントは退場時に集中し、特に若い方向けの公演では、スポーツでもエンタメでも、迎えの車が全国どこの会場でも問題になり、渋滞が起きやすい。国道に近く、施設周辺の滞留を回避する動線を考えた方が良い(長井委員) 敷地面積の制約もあり、専用のお客さん向けの駐車場は、ほぼ作らないのが最善と想定される。その場合にどういう対策があるのか。車で来場をご遠慮いただくことは、もちろんするが、車で来る人がゼロではないのが実際のところ。(菅委員長) 親が送り、帰る人たちがいっぱい出て、ほぼ1人につき1台という可能性がある。入口で10~20台待って、なかなか動かないケースもあり得る。VIP席などを考えると、駐車場をなくしたから、公共交通機関で来てくれればいいと投げてしまうと、余計に出てくる可能性があり、送り車や迎え車を明記して考えた方がいい。(久保田委員) 北九州スタジアムは駐車場を作っていない。実際どうなのか、ヒアリングなどをしていただければと思う。他にも駅近くで、街中で、駐車場がないスタジアムがあると思うので、実際どうなのか参考データがあるとよい。(菅委員長) 	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 運営収支は、実際の営業や使用料金、公演にかかるコストや会場の予約枠を踏まえ、興行事業者が会場を使う。首都圏のアリーナは興行が土日に集中し、平日の木金は設営日で稼働率は高まるが、使用料金が本番より下げられる。料金設定は運営事業者が判断し、これらが循環する形となる。(長井委員) 民意を待って、みんなが待ちわびているから、こんなすごいことをやろうという話になったらいいが、静岡市民の意見が一致して、これをやろうということは、今まで起こったことがない。こういう形のものでできて、これくらいのところで、これくらいなので、なんとかやろうというところで、コンセンサスができてくるのが、今までの成り立ちだと思う。(久保田委員) インフラ建設に関し、一定程度の市民の動きを捉えながら、今後、合意形成していくところもあった方がいい。(菅委員長)
-------------	--	---	---